

編集：山田浩司 & 美澄

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: mickeyy@pc4.so-net.ne.jp

私たちの9月11日

アメリカ史上最悪の1日にふたつの幸運・・・



2001年9月11日は、私達にとって、忘れ難い1日となるだろう。アメリカが同時多発テロの標的となり、ハイジャックされた旅客機が、NYの世界貿易センタービルやバージニア州アーリントンの国防総省（ペンタゴン）に突っ込み、乗客乗員を含む数千人が犠牲となった。上の写真は、ワシントン DC とバージニア州を結ぶ「キー・ブリッジ」から撮影したものだ。普段なら風光明媚なこのポトマック川の向こうで、煙がたなびいているのはペンタゴンだ。

9月8日から、岐阜の実家の両親と、高槻の叔父夫妻、弟の哲也がDCに遊びに来ていた。最初の3日間を郊外の観光に費やした後、この日からDCの観光を始めようと考え、初日の最初の訪問先をホワイトハウスにした。早朝哲也と2人でDCに出かけて、ホワイトハウス見学ツアーの開始時刻は10時と確認した後、9時過ぎにいよいよDCに向けて出発した。出発直前、テレビのニュースで、NYの世界貿易センタービルに飛行機が激突したのを知り、「これは多分テロだろう」と思った。でも、NYの出来事を自分達の行動予定と結びつけることもなく、我が家を出て、最寄り駅から地下鉄に乗り、ホワイトハウスに近いフェデラル・トライアングル駅に向かった。

駅を出て地上に出ると、すぐに何かおかしいと気付いた。地上にあるロナルド・レーガン・ビルに勤務する連邦政府職員がどんどん避難している。目の前のペンシルバニア大通りは、パトカーや救急車、消防車がけたたましいサイレンを響かせ、次々と通り過ぎる。すわ「DCでもテロか？」と思い、携帯電話で留守番中の美澄とコンタクトしようとした。数回トライしてようやく繋がった電話で、ペンタゴンが爆発したことを知った。そして、その電話を切った直後、我々の位置からすぐ西にあるホワイトハ

ウスの向こう側で、大きな爆発音が聞こえた。

これは相当に危ない… そう察した私は、すぐにホワイトハウスからなるべく離れようと考えた。地下鉄は大混乱するだろうから、英語のわからない同伴者がいるとはぐれた時に取り返しがつかないと思い、あえて地下鉄を避けて歩いて避難することにした。途中、JICA 事務所の戸田次長ともなんとか連絡がつき、ホワイトハウスの西方にある国務省近くで爆発騒ぎがあったこと、ハイジャックされた旅客機が DC に向かっているとの情報があることも知った。上空には F16 戦闘機が 2 機、猛スピードで北西の方角に飛んで行くのが見えた。

とにかく一行がはぐれない形で逃げられるだけ逃げようと考え、Eye Street をひたすら西へと歩いた。途中 JICA 事務所前で、ビルから退去していた戸田次長や上野さんと合流し、ジョージタウンからキー・ブリッジを渡り、対岸のロズリンまで歩いた。途中、何箇所かでペンタゴン方向から煙が上がっているのを目撃した。2 時間弱歩いてなんとかロズリンには辿り着いたが、そこから利用しようと考えていたバスはもう運行しておらず、やむなくさらに Lee Highway を西に歩き続けた。ジョージタウンを歩いている時、哲也と「ミネラルウォーター買っところか」と話したが、一瞬躊躇してそのまま歩き続けてしまった。後になってからこの判断を後悔した。

Lee Highway を 2km ほど歩いたところで、ようやく美澄と再び携帯が繋がり、戸田次長の奥様と 2 人、車で迎えに来てくれることで話がついた。休憩を取った後少し歩くと沿道にセブン・イレブンがあるのを見つけた。ミネラルウォーターを数本買い込み、さらに 1km ほど歩くと、待ち合わせ場所のスーパーマーケットがようやく見えてきた。Lee Highway はこのスーパーマーケット前の交差点で DC 方面の道路が警察によって封鎖されており、もしもう少し DC 寄りの場所を指定していたら、美澄達は車でピックアップに来ることはできなかっただろう。

美澄達と落ち合い、フォールズ・チャーチの我が家に帰還した時は本当にほっとした。丁度、隣のトムも帰宅したところだった。トムは陸軍の士官。普段は別のオフィスで勤務しているが、この日はたまたまペンタゴンに出かけていて、旅客機の激突に遭遇したようだ。トムが行った先は、激突を受けたブロックの反対側だったので無事だったけれども、激突した箇所が 3 階からすべり台のように崩壊しているのを見て帰って来たという。すぐ近くのフォート・マイヤーの託児施設にいた息子のトーマスも無事だったようだ。

NY やペンタゴンの大惨事で多くの犠牲者が出た中でちょっと書き辛いが、今回の避難行の中での不幸中の幸いは、事件のたった 4 日前に携帯電話の加入をしていたこと、そして、この日は「お爺ちゃんと遊びたい」とゴネた樹生を無理やり幼稚園に連れて行っており、美澄が留守番していたことだった。携帯は繋がりにくくなったけれども、自宅の美澄や JICA 事務所と連絡を取るのにはちゃんと機能したし、仮に樹生と一緒に来ていたら、「ダッコして」と連発して、じいさんや私がクタクタになっていたに違いない。

両親や叔父夫妻には大変きつい避難行を強いてしまって申し訳なかった。けれど、ピッツバーグ近郊で墜落した旅客機が実はワシントンを狙っていたという後日談を聞くと、地下鉄がどれだけ安全だったか疑問だし、すぐにホワイトハウスを離れたという自分の判断は間違っていなかったと思う。この場を借りて、テロの犠牲になった方々のご冥福を祈りたい。

同時多発テロ事件のお陰で、11 日夜に観戦する予定だったボルチモア・オリオールズ対トロント・ブルージェイズの試合は中止となり、その後も、ホワイトハウスやワシントン記念塔、リンカーン記念堂には近づくことができず、両親ご一行の観光としてはいささか不十分なものになってしまった。(哲也はなぜかしら運が強く、11 日早朝にホワイトハウス近くまで行けた他、13 日昼過ぎにもホワイトハウス正面で記念撮影をすることができた。でも、13 日は哲也の 3 時間後にホワイトハウスに近づこうとした両親一行は、その直前に起きた DC 北西部のイスラム寺院爆破騒ぎの影響で周辺の警備がまたまた厳しくなったために、遠方から撮影することしかできなかった。)



観光だけではない。いったんアメリカ上空の航空機飛行が全て禁止され、13日に運輸長官が禁止解除の発表をした後も暫くは国際線の運航がかなわず、一行は14日に予定通りダレス空港を出発することができずに我が家に引き返すことになった。仕事のある哲也だけは先に帰そうと、ノースウエスト航空のカウンターで再度交渉し、15日のデトロイト経由名古屋行きのフライトを1席押さえることができた。

引率の哲也が先に帰ることになり、アメリカ国内での乗り継ぎを嫌った他の4名分は、いったん21日発の全日空成田直行便を予約したが、17日になって念のためと美澄がフライトの空席状況を確認した結果、18日でも搭乗可能であることがわかり、急遽18日に帰国の途についたのだった。どうもお疲れ様でした。(浩司)

そして私は…… お留守番していたよかった!

米国同時多発テロがあった9月11日、私は嫌がる樹生を幼稚園に連れて行き、帰りの車の中で「世界貿易センターに2機の飛行機が突っ込んだ!」というニュースを聞きました。事故かな?と思いがら家に着くと、皆がテレビでその映像を見ているところでした。ただまさかもう1機ペンタゴンに落ちるとは思わなかったの、そのまま千智を含めた皆を送り出し、テレビを消して家の片付け始めました。暫くすると、JICA事務所の戸田さんから電話がかかってきて、「ペンタゴンにも飛行機が落ちて燃えている。」という情報を知らされました。慌ててテレビをつけると、確かに貿易センターだけではなくペンタゴンも燃えているではありませんか!すぐに浩司さんの携帯に電話をかけましたが繋がらず、留守電にメッセージを残しておきました。暫く待っていると、浩司さんから連絡が入りましたので、ペンタゴンにも飛行機が落ちたことを知らせました。次に、幼稚園に電話して子供をすぐ迎えに行った方が良かったか確認すると、「親の判断に任せます。」との返事でした。何か起きて車が渋滞してからでは遅いと思い、迎えに行くことにしました。幼稚園に着くと担任の先生から4機目がペンシルバニア州でハイジャックされて落ちたことを知らされました。彼女もまた家族に連絡を取ろうとして携帯電話を手にしていましたが、やはり通じなかったようでした。皆何が起きているのだろうと不安がっていました。

樹生を連れて家に戻ると、隣のナンシーが丁度職場から戻って来たところでした。「ジョージタウン(DCの中の地名)から車で戻ってきたが、大勢の人が歩いて避難している。」と教えてくれました。家で待っていると、ようやく浩司さんから2回目の連絡が入り、歩いて避難しているので、リー・ハイウェイの「Safeway」というスーパーマーケットまで迎えに来て欲しいと言われ、地図で確認して迎えに行くことにしました。JICAの戸田さんも一緒と聞いたので戸田さんの奥様にも電話して一緒に車で迎えに行きました。しかし、目的の場所に行こうとしたら、普段なら一本道で行ける筈なのに、渋滞している上に途中警官が立っていて通行止めになっており、迂回するはめになってしまい、慌てて地図を確認しながらなんとか待ち合わせの場所に到着することができました。しかし、そこは「Giant」というスーパーマーケットで、駐車場と待っていると、戸田さんの奥様の携帯で浩司さんと連絡が取れ、スーパーの名前が間違っていたことを知りました。ようやく皆に会う事が出来たときには、心の底からほっとしました。戸田家の車と我が家の車に全員を分乗させ、我が家に着いた時、我が家の9月11日は無事に終わりました。一緒に行って下さった戸田恵理さん本当に有難うございました。幸い私の知人には犠牲者はでませんでした。このテロによって多くの人の命が奪われました。その方々のご冥福を心からお祈りいたします。(美澄)

…それで、両親は観光できたのでしょうか

そんなわけで、はからずも大変な時期のアメリカ旅行となってしまった山田ファミリー。当初私達が考えていた観光日程は大幅に狂ったけれども、DCを避けざるを得なかったことや、週末を2回はさんだこともあり、観光ガイド「地球の歩き方」でもなかなか紹介されてない場所にも案内することはできた。以下はその一例である。

- マウント・バーノン…米国初代大統領ジョージ・ワシントンの邸宅が今も残っている。通常のツアーに加えて、9月9日には「18世紀フェア」が開催され、18世紀の衣装をまとったクラフトマン達による当時の面影を残す手工芸品が販売されていた。
- オアシス・ワイナリー…日本ではあまり紹介されていないが、バージニアはアメリカワインの発祥地で、州内に数多くの葡萄園がある。州西部をドライブした際、北部バージニアで最も有名なオアシス農園に一行を案内し、ちゃっかり自分達もワインのテースティングに参加した。
- フォールズチャーチ秋祭り…9月15日は我が家の近所で秋祭りが開催され、出店やアトラクションが多く、アメリカのお祭りの雰囲気を感じることができた。この日は他にも郊外のシャンティリーでアーミッシュ・キルトの展示即売会が開催されており、ペンシルバニア州南部のアーミッシュ人の手工芸品をご覧いただくことができた。
- オールド・ドミニオン・ビール工場…9月16日はボルチモアに出かけて「ボルチモア・オハイオ鉄道博物館」と「ベーブ・ルース生誕地博物館」に案内したが、その後、借りていたレンタカーをダレス空港近くで返却するついでに、アッシュバーンにある「ドミニオン」という地ビールの醸造所に一行を案内して、地ビールをご賞味いただいた。



殆ど自分の趣味の世界である。自分達で事前に行ったことのない場所に連れて行き、自分達のやりたいことをやらせてもらった感じである。鉄道や蒸気機関車は樹生が大好きだし、ぶどう園に隣接したワイナリーの開放感はピクニックがてらのランチに最適で美澄も好きだし、ビール党の私はお世話になっている地ビールの工場を実際に見てみたいと考えていた。勿論、ご一行のお陰で、観光地としては有名なのに今まで全く行ったことのないスミソニアン博物館群とかマウント・バーノンにも行けたので、自分達にとっても貴重な体験だった。

アメリカ国民が「報復」一色になっている現在、観光目的で戦時中の国に来ることは身の危険も伴うし、日程通りにことが進まないという可能性も否定できないが、観光ガイドに載っていない穴場の開拓もかなりできてきたので、リスクを避けてご満足いただけるご滞在をお約束できると思う。これに懲りず、読者の皆様も是非DCエリアにお越し下さい！（浩司）

私の仕事紹介(その6) IMF・世界銀行年次総会は延期に…

例年9月下旬は国際通貨基金（IMF）と世界銀行の年次総会が開催される。隔年でワシントンとそれ以外の都市で交互に開催され、今年はワシントンの予定だった。通常、先進8カ国蔵相・中央銀行総裁会議と引き続いて約1週間開催されるのだが、今年は、あの死傷者が出た7月のジェノバ・サミット以

降最大の国際会議ということで、グローバリゼーションに反対する国際的 NGO や、アメリカの学生がてぐすね引いてデモの準備を行っていた。私自身のグローバリゼーションに対する見解はここでは述べないが、一説に5万人とも10万人とも言われるデモ参加者にワシントン当局者と連邦政府がびびり、混乱回避を名目として9月29、30日の2日間の開催に短縮される決定が8月末になされた。

そこに起こった同時多発テロ。たとえ2日間といえども治安維持に警察を動員するのは大変だろうということで、IMF・世銀首脳と連邦政府との協議の結果、総会は無期延期となった。デモを予定していた各団体は、デモの名目を「反グローバリゼーション」から「反報復攻撃」に変更して決行した。

例年であれば世銀首脳が各国要人と個別面談するのに事前ブリーフィング資料を作成し、面談スケジュールの調整を行なう等、我が部署は結構忙しい筈だった。我らがチームリーダーのC女史は、7月15日から約2ヶ月休暇を取るにあたって、事前にいちばん「うるさい」6カ国について対処方針説明資料を作れという指示を我々に出し、ろくに中身をチェックしないまま休暇に入ってしまったが、肝心の会議は短縮された挙句に延期になってしまい、私達は準備作業に全く身が入らず、抜け殻状態に陥ってしまった。(浩司)

すげーぞ、イチロー&カル・リプケン!

大リーグでのイチローや新庄の活躍は、連日日本のマスコミでも報道されているので、ご存知の方も多だろう。日本にお住まいの方から、「大リーグはもうご覧になりました?」と聞かれることも多い。4月にレッドソックスの野茂投手が、ボルチモアでオリオールズ相手にノーヒット・ノーランをやった試合はJICA ミッションの来訪時と重なり見るができなかったが、オリオールズが同じアメリカンリーグ西地区のシアトル・マリナーズと本拠地で対戦するのは8月31日~9月2日の3連戦であると早くから狙いを定め、9月2日の第3戦に家族で出かけた。ボルチモアのカムデン・ヤード球場で野球を観るのは2回目で、今回は、「地球の歩き方」でも紹介されていたカムデン・ヤード名物の「クラブケーキ・バーガー(チェサピーク湾産のカニのハンバーガー)」もしっかり賞味した(あまり美味しいものではなかったが)。

今年のマリナーズは異常に強いので、結果はご当地のオリオールズが見事に3連敗。我らがイチローは絶好調で、3試合を通じてヒット5本、盗塁4個を量産した。私達の目の前で本塁捕殺もやって守備も魅せてくれました。佐々木も2セーブを挙げた。日本人としては大満足———と言いたいところだが、実は私達にとってはオリオールズのカル・リプケン三塁手が自分達の観戦した試合の、しかも佐々木が登板した9回裏無死1、2塁の大チャンスにきっちりレフト前ヒットを打ったことが嬉しかった。残念ながらレフトからの好返球で二塁走者は本塁憤死で、結果佐々木は虎の子の1点を守りきり、セーブを挙げたわけだが、ボルチモアのファンの殆どが大満足で球場を後にしたに違いない。

カル・リプケンは今年41歳。1983年にオリオールズがワールドシリーズで優勝して日本に来た時、私は後樂園球場での対巨人戦を観た記憶がある。当時は未だルーキーで、背番号が同じ「8」だった原辰徳内野手と比較されていた。その後、広島衣笠内野手の持つ連続試合出場記録を塗り替え、2632試合にまで伸ばし、1999年9月に400号ホームラン、2000年4月に3000安打を達成、1983年と1991年にMVPに選ばれ、オールスターファン投票選出19回というスーパースターである。今年6月に今限りで引退することを表明したが、7月のオールスターでは先制ホームラ



ンを放って MVP に選ばれた。私達が 5 月に出かけたヤンキース戦でもヒットを放ち、そして今回も佐々木からヒットを放つ。自分にとっては「3 番、サード長島」並みの存在である。

リプケンがこれだけの人気を誇るのには、その華々しい成績もさることながら、地元メリーランド州生まれで、父カル・シニアはオリオールズのコーチ、監督を務め、弟のビリーも同チームに所属していたという生粋のメリーランド人であるからだと思う。アメリカのプロ選手は条件が良ければ平気で他チームに移籍してゆく中で、オリオールズ一筋で現役生活を送り、劇的な打撃と守備を地元ファンに披露し続ける… こんなカリスマ選手が引退したら、オリオールズはどうなってしまうのだろうかと心配してしまう。(浩司)

編集後記

- 山田ファミリー受入準備の一環として、9 月に入って急遽携帯電話に加入しました。一家で 2 台使用できるプランに加入したかったのですが、私が社会保障番号 (Social Security Number) を取得していなかったために、1 台で使用するプランにしか加入できませんでした。社会保障番号はアメリカ国民 1 人 1 人を識別する納税者番号のようなもので、各種公共サービスの加入や、自動車の購入、運転免許証の取得、銀行口座の開設、クレジットカードの加入等、手続をする際に必ず聞かれるのですが、世銀職員のような国際公務員は取得しなくても生活に支障はなく、手続は何ら支障なく完了しました。去年の 10 月、一度だけ社会保障事務所に行って番号取得申請をしようとしたのですが、持っていたパスポートが新しすぎるとクレームを付けられ (発給後最低 1 年経過していなければならないとか)、1 年待ちました。たかが携帯電話ごときで…とは思いましたが、両親が無事帰国した後で申請再挑戦しました。しかし、今度は入国カード (Form I-94) がパスポートに未添付だとクレームを付けられてもう一度出直し。翌々日このカードを持って再び社会保障事務所を訪れ、三度目の正直でようやく申請を完了しました。今の任期が終了した後、再びアメリカで生活する機会でもあれば話は別ですが、これまで 1 年間番号なしでもやってこれたわけで、残りの 1 年間で番号を使う機会などあるのだろうかという疑問には感じています。(浩司)
- 私の情報源はラジオです。樹生の幼稚園の送迎などで車を運転している時、WTAP という FM 局を聞いています。世界貿易センターにハイジャック機が突っ込んだことを知ったのもラジオ。ペンタゴンにもハイジャック機が落ちて周辺道路を封鎖していることを知ったのもラジオ。同時多発テロ事件以前から聞いていたのですが、この日以来ますます熱心に聞くようになりました (理解度は 50% ですが)。今はアフガニスタンを爆撃したとか、炭疽菌のことなどあまりいいニュースは流れてきませんが、有事に情報は命。英字紙をあまり読まない私には貴重な情報源です。(美澄)
- 10 月に入ったらカボチャを飾る家が増えました。私達も郊外の農場でお好みのカボチャを買って来て、早速中をくりぬいてジャック・オー・ランタンを作ってみました。中にロウソクを入れ、火をつけると、とても雰囲気が出て良かったのですが、日が経つにつれてカボチャがしなびてきて、おばあさんの顔のようになり、中にはカビも生えてきたので、捨ててしまいました。後から友達に聞いたら、カボチャをくりぬくのはハロウィンの前日や 2、3 日前だそうです。考えてみたらカボチャはナマものだったんですね。そんなこともアメリカに来て初めて知りました。(美澄)
- 9 月から 10 月にかけては、各地で秋祭りが開催されており、振り返ってみたら、私達もほぼ毎週のようにどこかに出かけていました。9 月に両親一行を案内してボルチモア鉄道博物館に行った際、10 月第 1 週末にメリーランド州のブランズウィックという町の鉄道祭で、客車に乗って沿線見物できるというツアーがあることを知り、早速行ってみました。パンフレットには蒸気機関車のイラストが載っており、てっきり機関車が客車を牽くのかと思っていたら、単にディーゼルの旅客列車に乗るだけということがわかり、樹生君は号泣。この町の鉄道博物館のジオラマ模型 (なんでも東海岸有数の展示だとか) にも満足せず、次は必ず蒸気機関車に乗せると約束させられた次第です。(浩司)